OKB Market Report

大垣共立銀行
市場金融部

◆3月18日～3月24日の回顧◆

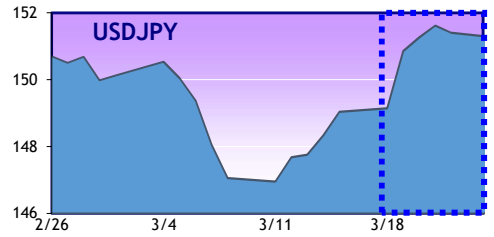
	USDJPY	EURJPY	AUDJPY	日本国債10年	日経平均	TOPIX	CLOSE	
OPEN	149.00	162.28	97.76	0.790	38,960.99	2,688.46	米国債10年	独国債10年
HIGH	151.86	165.35	100.17	0.790	41,087.75	2,820.45	4.1981	2.3230
LOW	148.91	161.95	97.58	0.725	38,935.47	2,685.84	原油先物	金先物
CLOSE	151.41	163.67	98.66	0.740	40,888.43	2,813.22	80.63	2,160.00

日付	国	イベント	
3/18		本邦報道機関	「日銀はマイナス金利政策解除のほか長短金利操作やETF買い入れも停止する方向で協議」
3/18-19	日	日銀金融政策決定会合	マイナス金利政策解除、長短金利操作撤廃、ETF等の買い入れ停止
3/19	日	植田日銀総裁	「当面、緩和的な金融環境は継続すると考えている」
3/19-20	米	FOMC	政策金利据え置き、年内3回の利下げ見通しを維持
3/20	米	パウエルFRB議長	「バランスシートの縮小ペースをかなり早期に緩めることが適切」
3/22	米	ボスティック・アトランタ連銀総裁	「年内利下げは1回にとどまると予想する」

【外国為替市場】ドル／円は日米中銀イベントを経て上昇

－週初は、日銀政策決定会合においてマイナス金利解除、長短金利操作撤廃、ETF買い入れ停止等が決定されると、ドル／円は一時的に149円台前半まで下落した。しかし決定内容が概ね事前アナウンス通りであったことや、植田日銀総裁の会見で今後の利上げについて慎重な姿勢が示されたことから、円売りが優勢となりドル／円は150円台後半まで上昇した。
－週央では、FOMCにて金利見通しについて前回会合時と変わらず、年内3回の見通しを発表したことや、パウエル議長が慎重な姿勢を示したことから、発表直後のドル／円は151円台後半から150円台後半まで急落したが、その後すぐに買い戻された。
－週末は、主要なイベント通過後によりドル／円は151円台を方向感無く推移しこの週の取引を終えた。

日	指標	予想	結果
18	ユーロ圏2月消費者物価指数(前月比)	0.6%	0.6%
19	独3月ZEW景気期待指数	20.5	31.7
20	独2月生産者物価指数(前月比)	-0.1%	-0.4%
21	ユーロ圏3月製造業PMI	47.0	45.7
21	ユーロ圏3月サービス業PMI	50.5	51.1
21	米新規失業保険申請件数(前週分)	213k	210k
21	米3月製造業PMI	51.8	52.5
21	米3月サービス業PMI	52.0	51.7
22	日2月全国消費者物価指数(前年比)	2.9%	2.8%
22	独3月IFO企業景況感指数	86.0	87.8

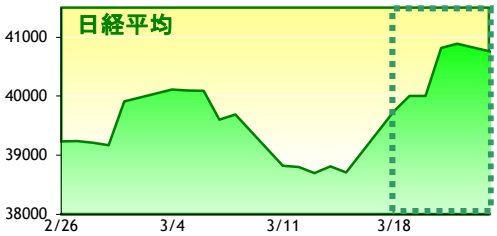


【国内金利市場】国内長期金利は日銀の緩和姿勢を受け、小幅に低下

－週前半は、日銀がマイナス金利の解除に加え、長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）やETF買い入れなどの金融緩和政策の廃止を決定した。17年ぶりの利上げとなったものの、植田日銀総裁の「当面緩和的な金融環境は継続する」との発言から国内債券は買いが優勢となり、国内長期金利は0.725%（前週末比△0.065%）に低下した。
－週後半には、FOMCにてパウエル議長の慎重な姿勢が示され米金利は低下基調となったものの国内債券への影響は限られ、国内長期金利は0.740%でこの週の取引を終えた。

【国内株式市場】日経平均株価は史上最高値を更新

－週初には日銀会合においてマイナス金利が解除されると伝わり、日銀による政策修正への警戒感から下落していた日本株は不透明感払拭から買い戻しの動きが優勢となり、大きく上昇、火曜日にはマイナス金利の解除が決定されたものの、緩和的な金融環境が続くとの見通しが優勢となり、為替の円安推移も相まって株価は続伸、日経平均株価は大台の40,000円台に乗せた。
－週末にかけては、米FOMCを無難に通過した安心感から米国株が上昇した流れを引き継ぎ、国内株も続伸し一時41,000円台に到達したが、利益確定の売りにより上げ幅を縮めてこの週の取引を終えた。
－結局、この週の日経平均株価終値は前週末比+2,180円79銭の40,888円43銭と大きく上昇し、史上最高値を更新した。



このレポートは、外国為替相場・日本国内金利・日米株価等に関する情報の提供を目的としたものです。また、このレポートの予測はあくまで参考に記載させていただいているものです。従いまして、本レポート記載内容および予測結果に対しましては、当社は一切責任を負うものではありません。このレポートのいかなる部分も一切の権利は大垣共立銀行に帰属しており、無断での複製・転載を行わないようにお願いいたします。また、本レポートの内容に基づいて当社がお客様に何らかの勧誘を行うこともありません。

OKB Market Report

大垣共立銀行
市場金融部

◆3月25日～3月31日の見通し◆

日付	国	イベント
3/25	米	クックFRB理事　講演
3/27	日	田村日銀審議委員　講演
	米	ウォラーFRB理事　講演
3/28	日	日銀金融政策決定会合における主な意見(3/18-19開催分)
3/29	米・ユーロ圏	市場休場
3/30	米	パウエルFRB議長　講演

【外国為替市場】ドル／円は高値圏でもみ合う展開を予想

－先週のFOMCにおいては、前会合と金利見通しに変化は無く年内3回の利下げ予想が維持された。足元の米経済指標では堅調な内容が確認されているものの、パウエル議長も金融政策に慎重な姿勢を示しており、今後の経済指標では弱含む可能性が予想される。そうした中、今週はPCEコアデフレーターに注目したい。インフレは鈍化しつつあるとパウエル議長も認識している中、当該指標結果も前回より伸びは鈍化すると推察するが、市場もある程度織り込んでいると考えるため、反応は限定的となるだろう。

―また、ドル／円は高値圏で推移している中、本邦当局による為替介入にも一定の警戒感が燻っていると考えるため、ドル／円の上値も限られるだろう。

【国内金利市場】国内長期金利は小幅な低下を予想

－今週は、日銀金融政策決定会合でマイナス金利解除等の大規模な金融緩和政策の終了が決定したが、市場の想定内の結果となった。よって、日銀による金融引き締めの可能性が後退しており国内債券は買われ易いだろう。

―一方、FOMCでは、今年の金利見通しが年3回に変化が無く、パウエル議長も今年のある時点での金融緩和観測を示しており、慎重な姿勢を示している。よって、米金利も上昇し難い展開であると予想し、国内長期金利は小幅な低下となると予想する。

【国内株式市場】日経平均株価は弱含む展開を予想

－今週の日経平均株価は、年初来からの急上昇による利益確定の売りや、年度末の需給要因から弱含む展開を想定する。

－先週の日経平均株価は4営業日で2,000円超の上昇となり、金曜日には利益確定の売りが出て下落する場面があった等、年初来からの急上昇に対して警戒感がくすぶっている。今週は利益確定の売りが出やすく、上値の重い展開となるだろう。

－今週は年度末最終週であり需給面が意識される。今年は歴史的高値圏であることから、年金のリバランスによる売り圧力が強まる可能性がある。更に、配当権利落ちによる下押し影響もあることから、日経平均株価は弱含む展開を想定する。

－但し、株式市場を取り巻く環境は引き続き良好であることから買い意欲は旺盛であり、大幅な下落とはならないだろう。

〈予想レンジ〉

ドル／円	151.00－ 152.00	円	→
ユーロ／円	163.00 －164.00	円	→
豪ドル／円	98.00 － 99.00	円	→
TIBOR3ヵ月	0.220 － 0.280	%	→
日本国債5年	0.350 － 0.400	%	→
日本国債10年	0.650 － 0.780	%	↘
日経平均	39,500 －41,000		↘

（出所：bloomberg）

日	指標	予想	前回
26	米2月耐久財受注(前月比)	1.2%	-6.2%
26	米3月ｺﾝﾌｧﾚﾝｽﾎﾞｰﾄﾞ消費者信頼感	106.8	106.7
28	独2月小売売上高(前月比)	0.4%	-0.4%
28	米4QGDP(年率/前期比)	3.2%	3.2%
28	米新規失業保険申請件数(前週分)	213k	210k
28	米3月ﾐｼｶﾞﾝ大学消費者ﾏｲﾝﾄﾞ	76.5	76.5
29	日3月東京消費者物価指数(前年比)	2.5%	2.5%
29	米2月個人所得(前月比)	0.4%	1.0%
29	米2月PCEコア価格指数(前月比)	0.3%	0.4%
31	中3月製造業PMI	50.0	49.1
31	中3月ｻｰﾋﾞｽ業PMI	--	51.4

【 Market Pick Up ！　日銀大規模金融緩和政策終了】

2024年3月19日、物価目標の実現が見通せるようになったことで、日銀は長短金利操作やETF買い入れ等の廃止に加え、8年間続いたマイナス金利を解除を決定し、金利のある世界が戻ってきた。ただし、植田日銀総裁の発言では、その後の金融政策は当面緩和姿勢を継続する可能性を示しており、市場の期待していた更なる利上げ観測が後退した動きから円売りが優勢となった。

このレポートは、外国為替相場・日本国内金利・日米株価等に関する情報の提供を目的としたものです。また、このレポートの予測はあくまで参考に記載させていただいているものです。従いまして、本レポート記載内容および予測結果に対しましては、当社は一切責任を負うものではありません。このレポートのいかなる部分も一切の権利は大垣共立銀行に帰属しており、無断での複製・転載を行わないようにお願いいたします。また、本レポートの内容に基づいて当社がお客様に何らかの勧誘を行うこともありません。

OKB Market Report

大垣共立銀行
市場金融部

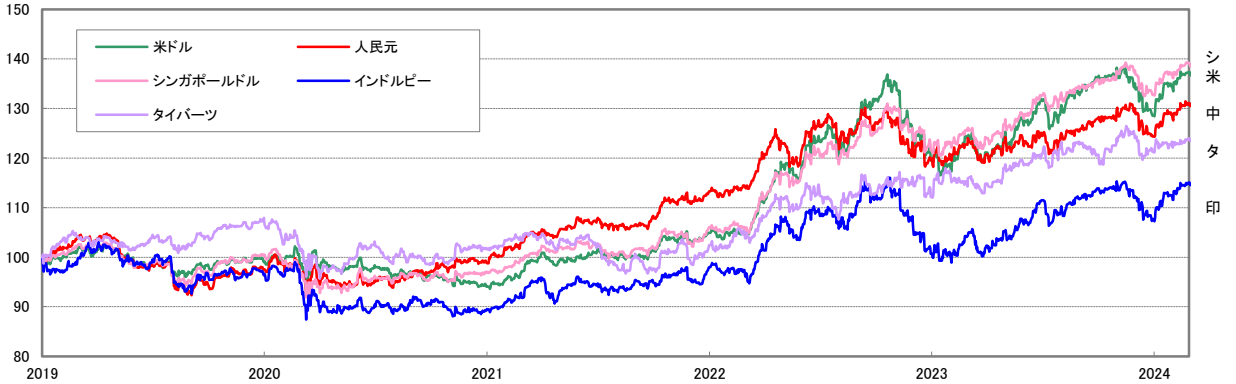
◆アジア市場の動向◆

株式市場（前日終値）				外国為替市場（対日本円、前日終値）			
上海総合	3,048.03	タイSET	1,381.04	人民元	20.951	タイバーツ	4.0856
香港ハンセン	16,499.47	ベトナムVN	1,281.80	香港ドル	19.36	ベトナムドン	0.6113
韓国KOSPI	2,748.56	マレーシアKLCI	1,542.39	韓国ウォン	11.31	マレーシアリンギ	32.012
シンガポールST	3,217.97	ジャカルタ総合	7,350.15	シンガポールドル	112.23	インドネシアルピア	0.9595
インドSENSEX	72,831.94	フィリピン総合	6,881.97	インドルピー	1.8144	フィリピンペソ	2.6899

（※韓国ｳｫﾝ、ｲﾝﾄﾞﾈｼｱﾙﾋﾟｱは100通貨、ﾍﾞﾄﾅﾑﾄﾞﾝは10,000通貨あたり）

アジア主要株式市場の推移（2019/1/1=100）

アジア主要通貨の推移（対円、2019/1/1＝100）



アジアと主要先進国の実質GDP（前年比%）

	2023/1Q	2023/2Q	2023/3Q	2023/4Q
中国	4.5	6.3	4.9	5.2
韓国	0.9	0.9	1.4	2.2
インド	6.18	8.22	8.08	8.36
シンガポール	0.5	0.5	1.0	2.2
タイ	2.6	1.8	1.4	1.7
ベトナム	3.32	4.14	5.33	6.72
マレーシア	--	2.9	3.3	3.0
インドネシア	5.04	5.17	4.94	5.04
日本	2.6	2.3	1.6	1.2
米国	1.7	2.4	2.9	3.1
ユーロ圏	1.3	0.6	0.1	0.1

アジアと主要先進国の政策金利

中国	1年物貸出金利	4.35%
	1年物預金金利	1.50%
香港	翌日物基準金利	5.75%
韓国	7日物レポレート	3.50%
インド	レポレート	6.50%
タイ	レポレート	2.50%
ベトナム	ベースレート	9.00%
マレーシア	オーバーナイトレート	3.00%
インドネシア	7日物リバースレポレート	6.00%
日本	無担保コールレート	0.0-0.1%
米国	FFレート誘導目標	5.25-5.50%
ユーロ圏	リファイナンスレート	4.50%

このレポートは、外国為替相場・日本国内金利・日米株価等に関する情報の提供を目的としたものです。また、このレポートの予測はあくまで参考に記載させていただいているものです。従いまして、本レポート記載内容および予測結果に対しましては、当社は一切責任を負うものではありません。このレポートのいかなる部分も一切の権利は大垣共立銀行に帰属しており、無断での複製・転載を行わないようにお願いいたします。また、本レポートの内容に基づいて当社がお客様に何らかの勧誘を行うこともありません。